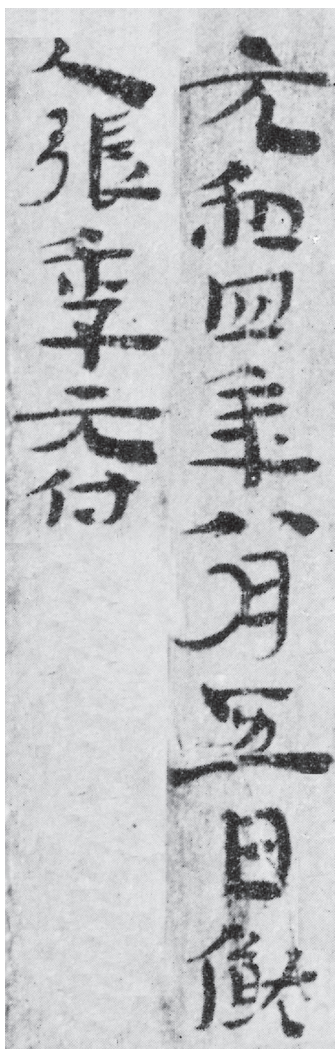


一字書課題 (11月22日締切)

丹

- (1) 書体自由 (2) 半紙タテ
- (3) 落款は余白に調和を工夫し書き入れる
- (4) 出品料 四四〇円
- (5) バーコード券の余白に「一字書」と記入

条幅随意参考



張

書跡名品叢刊『木簡殘紙集①』(二玄社)

元和四年八月五日儼人張季元付
※按粹可。条幅は一枚目無料、二枚目から五五〇円。半紙随意部(無料)にも出せます。条幅部に出品する場合はバーコード券余白に「条臨」と記入。

高橋香樹会長担当 半紙臨書課題

(11月22日締切) 出品料440円



木簡(急就章)

第七回
1、字句「急就奇觚」

- 2、形式「半紙タテ使用。右に「急就」左に「奇觚」と臨書し、左余白に落款〇〇臨と調和を工夫して書き入れる。
- 3、概観「今回の課題は、「急就章」の一部です。「急就章」は、漢代に広く行われた字書の一つで、三字、又は七字の句、六十三字をもって一章をなし、六十数章をもって成編とするものです。この「急就章」は、書写を職業とする人々によって書かれています。つまりこれは、後世の千字文の祖形で、識字の教科書であると同時に習字の手本として、現在の出版社にあたる「筆耕屋」が生産したもので、その時代の標準的な書風を示しています。
- 4、各字のポイント

急 この簡の書風は八分とはやや遠く、古隸に近いもので「心」の第二画は、ただ軽く右に流すようにしている。

就 偏を縦長に、旁をやや高めに位置させる。最終画は勢いよく右に出している。

奇 同じ長さの横画を無造作に並べて書いている。三・四画の点は、三画は左に、四画のは右に向かって打つ。「口」の三画目は右下に。

觚 縦画が多いので、その処理の仕方を考えて。最終画は、勢いのまま右にはね出す。

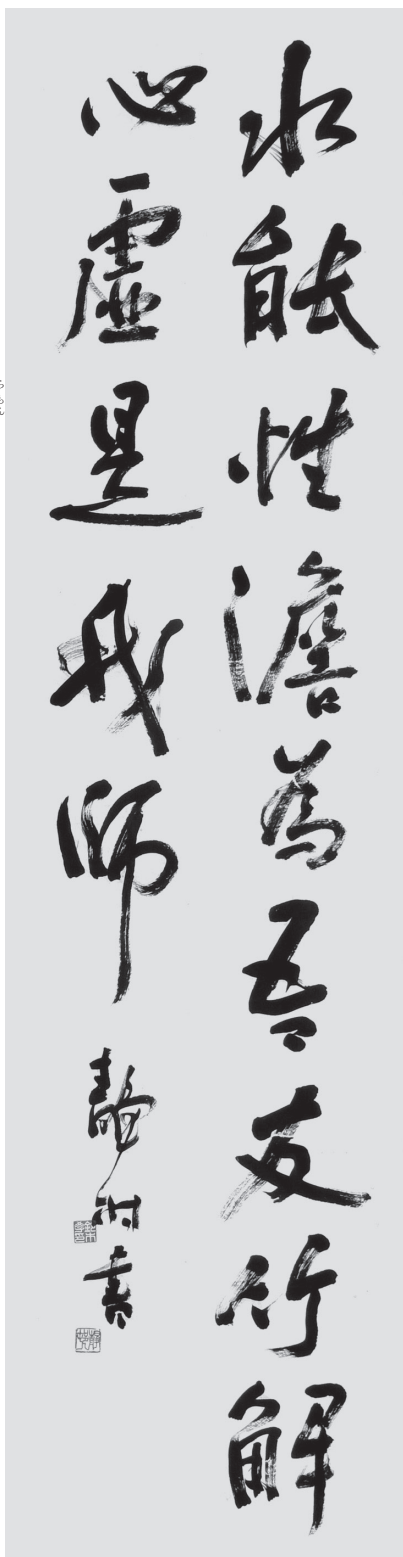
条幅部漢字課題参考

(十一月二十二日締切)

A

鈴木静村先生書

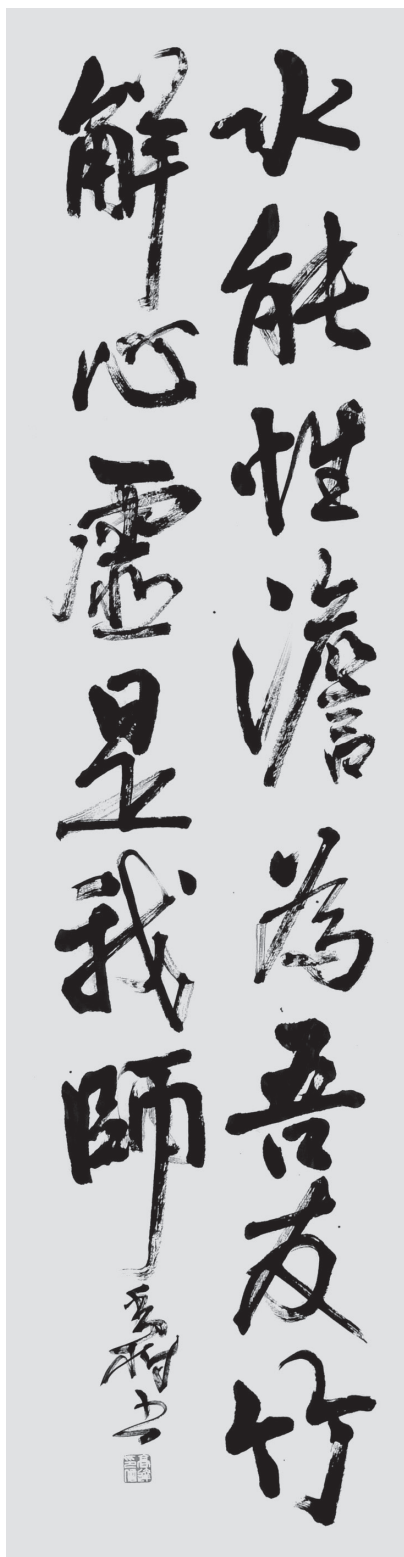
水能性澹爲吾友 竹解心虚是我師 (白楽天)
水能く性澹吾が友と爲す、竹解く心虚はれ我が師。



B

高橋香樹会長書

今回は、洗硯したばかりの羅紋(12インチ)で磨墨。和墨の微粒子と宣紙との融合が快い。吾 墨継ぎ。解 末画はやや長め。虚 虎構えの筆順、①左払いを二筆目に、②左払いを最後に、作例は私の好みで②。是 墨継ぎ。末画の払いのびやかに。我 右斜画は主要画。師 末画でスッキリと成功させたい。



今回は行書単体としました。最初はいつものように行草体で書きましたが、行書が多かったこともあり、行書単体となりました。行書単体は、今まで書いたことがなかったような気がしていましたが、何か新鮮な気分になりました。墨継ぎは「吾」と「是」。

訳：水はよく性が淡泊であるから吾が友となり、竹はよく心にわだかまりがないから我が師とする。

予告 (十二月二十二日締切)

蒼山半帶寒雲重 丹葉疎分夕照微 (林通)

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条漢を○で囲み(1)と記入する。)
 - ・二枚目からの出品 (バーコード券の条漢を○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料550円)

条幅部かな課題参考

(十一月二十二日締切)

A

平岡華雪先生書

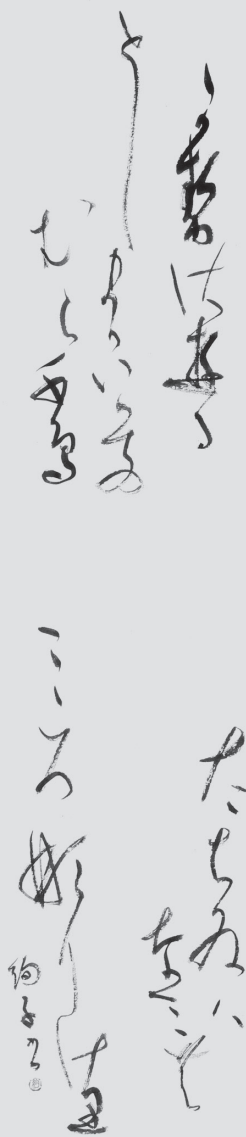
風さゆるとしまが磯のむら千鳥たちゐるは浪の心なりけり(新古今和歌集 正三位季経)
 か勢佐遊る登志萬可移楚のむら遅とりたちゐるはな三の故路なり希り



B

宮 絢子先生書

可勢佐遊るとしま可いそのむら千鳥たちゐる八奈三農こゝろ那りけり



正三位 藤原季経

平安時代末期(1131年生)から鎌倉時代前期(1221年没)にかけての公家、歌人。1198年に正三位。1201年出家して法名は蓮経。

「千五百番歌合」等の判者となったが、百人一首の選者である藤原定家と対立したことで知られる。そのためかどうか、季経の歌は百人一首には選ばれていない。

学 び 方

歌意：冷たい風が吹いているとしまが磯の群千鳥は、飛び立つも磯に居るも、波の心のままであることだ。
 「新古今和歌集卷第六」に収められているこの歌は、題に『文治六年女御入内屏風に』とあるように、風さゆる(澄み切った冷たい風が吹いている)磯での作者の実体験を歌ったものではなく、屏風絵から感じ取ったイメージを歌にしたものである。

学び方 上・下二段構成とする。

上段は上の句五・七・五の三行書きとし、三行を集めまとめるように行間を狭くする。

下段は、上段の集団を受けるように横幅を広げる。助詞(立居は、波の)で行分けをして三行書きとする。この時、上段との関わりが単調にならないよう、行間に広・狭の変化をつける。

予告 (十二月二十二日締切)

み空ゆく月の光は澄みながら山の枯原かすみたるらし (土田耕平)

◆注 意

- ・条幅部の出品は一人一点(バーコード券の条かを○で囲み(1)と記入する。)
- ・二枚目からの出品(バーコード券の条かを○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料550円)

条 幅 部 随 意 参 考

金子裕香先生書

好句有時堪入畫 閑情無日不提壺（殷如梅）
好句時有^{こうくときあ}りてか画^がに入るに堪^たえたり、閑情^{かんじやうひ}日として壺^{ひつ}を提^ひさげざるは無^なし。

好句有時堪入畫
閑情無日不提壺
秋吉玄

訳…よい詩句は時に画に入るにじゅうぶんであり、塵外の静かな情は酒壺を携えて外出せぬ日はない。

大和田 玉玲 先生 書

山里^{やまざと}は秋^{あき}こそことにわびしけれ鹿^{しか}のなく音^ねに目をさましつつ（古今和歌集）
や万^ま佐^さと八^は秋^{あき}こ楚^そ登^とる日^ひ新^しけれ鹿^{しか}農^の年^ね二^に免^めを沙^さまし徒^つ々

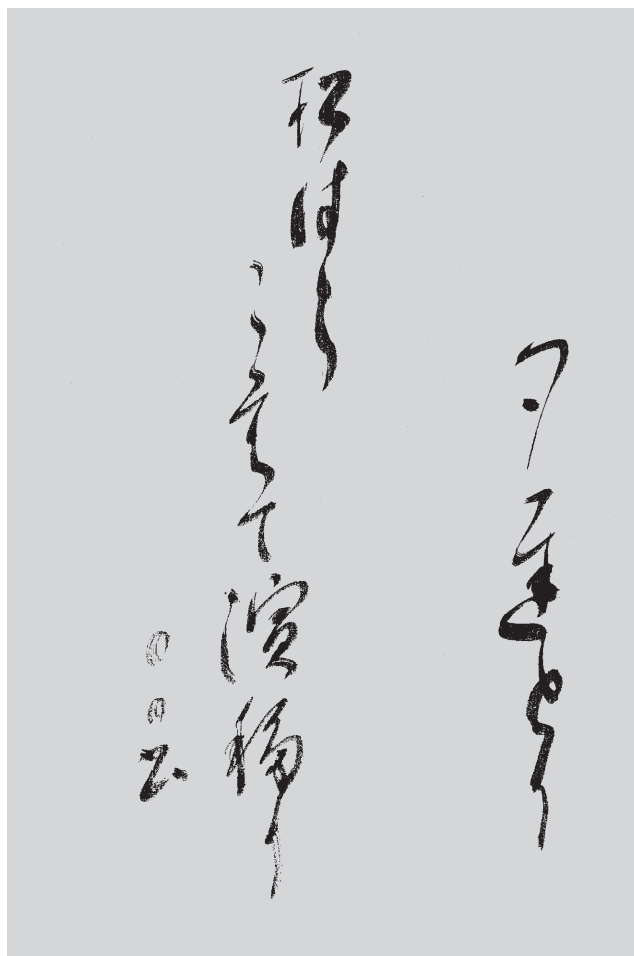
壬生忠岑

やんけふ秋こけしけれ
鹿のなく音に目をさまし
つつ
秋吉玄

歌意…山里は、秋がとりわけ侘びしい。鹿の鳴く声によって、目をさましさましして。

- ◆注 意
- ・条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条随を○で囲み（１）と記入する。）
 - ・二枚目からの出品（バーコード券の条随を○で囲み（ ）に何枚目か数字を記入する。出品料550円）

かな部課題参考 (十一月二十二日締切)



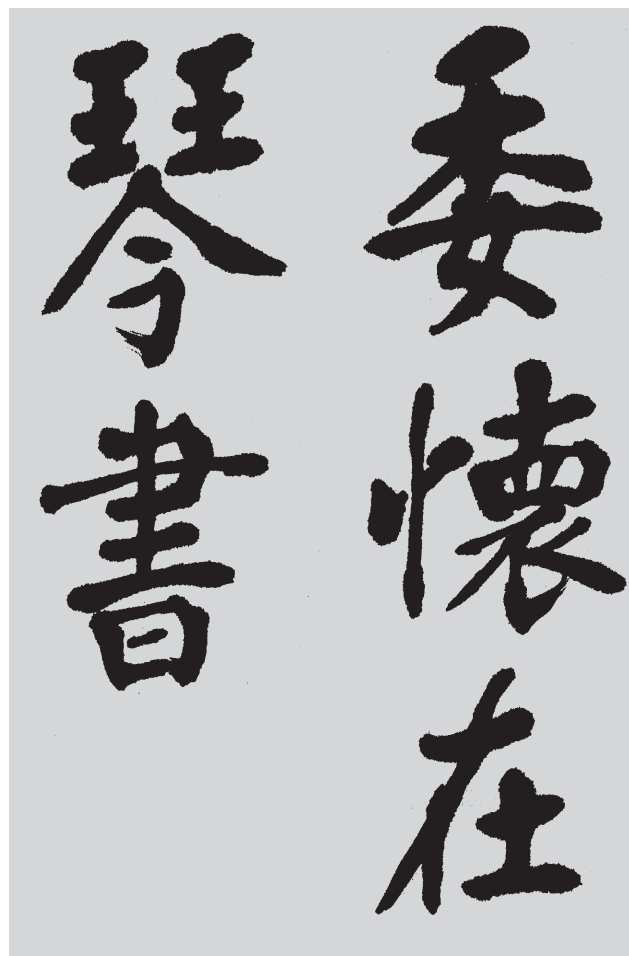
平岡華雪先生書
夕千鳥松原越えて濱移り (花蓑)
夕遅とり松はらこ衣て濱移り

〈連綿用筆の基礎に注意〉
初歩の方は、「遅とり」「こえて」の用筆に注意して下さい。連綿の基礎用筆の一つです。鋒先が画の終りまでいき連綿しています。鋒先が画の途中から出ないよう注意して下さい。

(十二月二十二日締切)

埋火のゆめやはかなきことばかり (子規)

漢字部課題参考 (十一月二十二日締切)



平岡華雪先生書
「委」の「女」、この画の組み合わせが要点。「懐」の「衣」は第一画の点を省くことが古典に多い。形がとりやすい。
「委」の「女」、この画の組み合わせが要点。「懐」の「衣」は第一画の点を省くことが古典に多い。形がとりやすい。



(十二月二十二日締切) 空庭多落葉 (陸游)

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に①～④を記入し、作品左隅に貼付の上、出品して下さい。一般会員は無料、会員外出品料は460円。

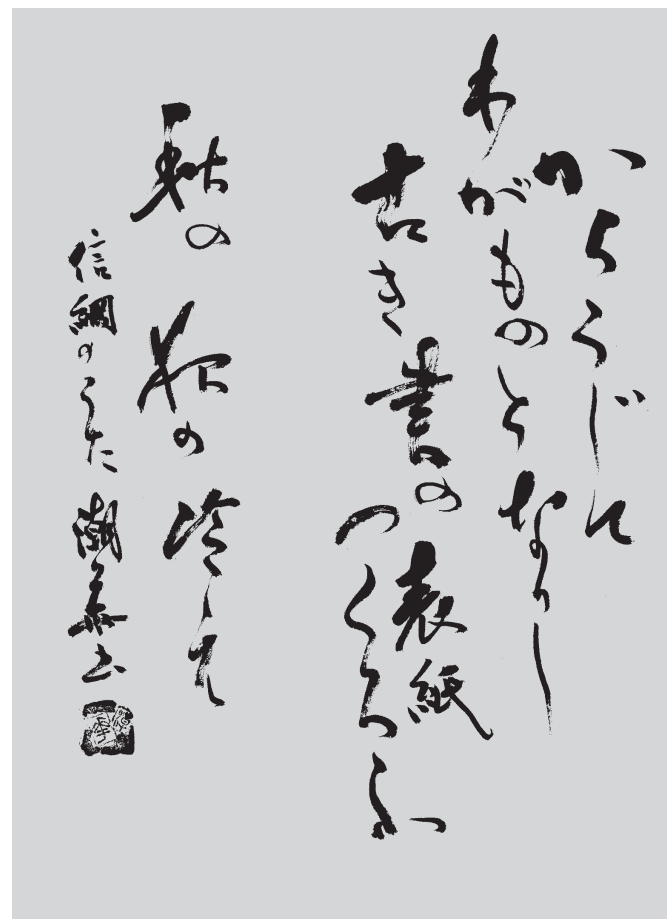
①出品部門(例:「漢字部」「かな部」) ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

楷、行、草、三体課題参考（十一月二十二日締切）

漢字かな交じりの書課題参考（十一月二十二日締切）

水貝潮華先生書

からうじてわがものとなりし古き書の
表紙つくろふ秋の夜の冷え（『豊旗雲』佐佐木信綱）

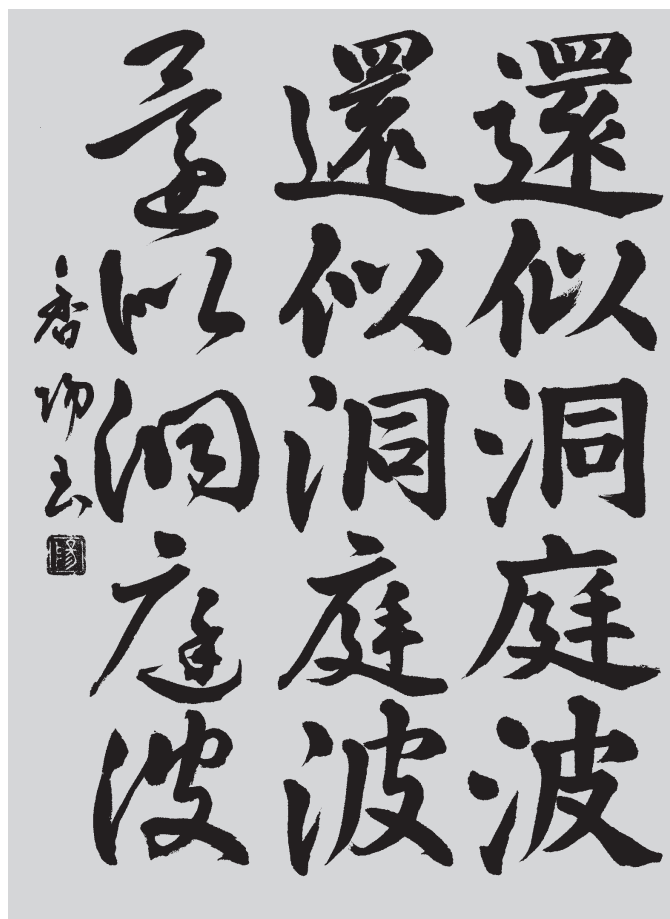


(1)出品料550円 (2)バーコード券余白に「漢か」と記入

佐佐木信綱（一八七二―一九六三）歌人。歌学史、和歌史の研究家として古本・古写本の発見、紹介等多大の業績をあげた。この歌は、入手のきわめて困難だった古書が、ついに「わがもの」となった喜びに浸り、秋冷えの夜ふけの部屋で一人表紙を修理していると詠んだ。前半を密に、そして余白を入れ、単調を避けるよう後半をゆったりと配字した。

福田香陽先生書

還似洞庭波（王褒）
還た洞庭の波に似たり。

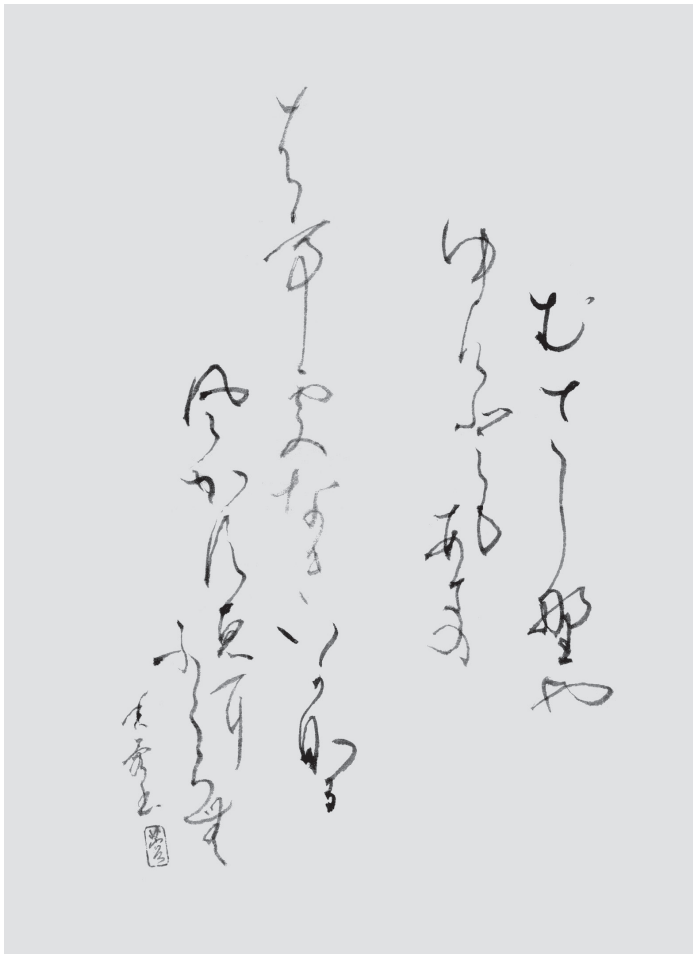


(1)随意部参考として出品してください。(2)会員外の出品料は460円。

訳：（秋風が木の葉を吹き落としているさまは）なんとなく洞庭湖の波に似ている。

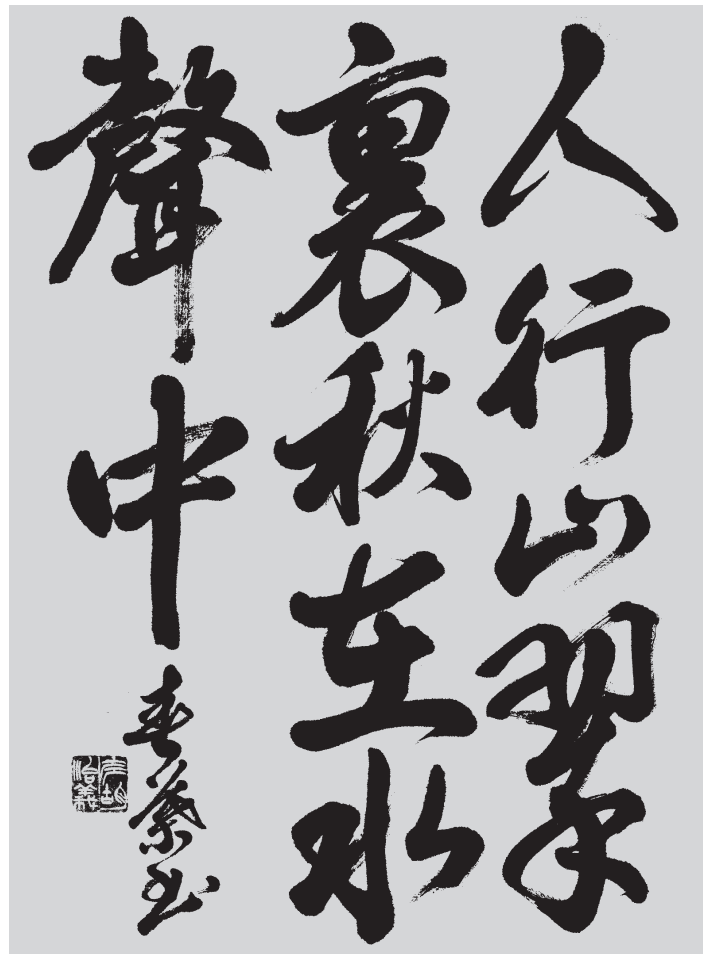
随意部参考

歌意…武蔵野よ。行けども行けども草葉は色づいて秋のけしきは尽きるとも見えない。いったいどのような風が野末には吹いていることであろう。



川上香蓉先生書
 武蔵野やゆけども秋のはてぞなきいかなる風か末にふくらん（新古今和歌集）
 左衛門督通光
 むさし野やゆ介登もあ支の者亭處なきい可那る風か須恵耳ふ久ら無

訳…人は山色のみどりなる処を行き、秋は水音の清く聞える中に在るのである。



多胡春葉先生書

人行山翠裏 秋在水聲中（趙甌北）
 人は山翠の裏を行き、秋は水声の中に在り。

硬筆部昇試課題参考

(十一月二十二日締切)

赤木典子先生書

昇試課題2 (初段格以下)

石原春香先生書

昇試課題1 (師範以下初段以上)

(※正教授合格者はこの課題を書かないで下さい)

※正教授合格者は創作部門(自運作品、自由形式)に出品して下さい。出典をバーコード券に記入して下さい(作品の中に書いても可)。

白銀色の魚は、いずれも水面を出る時にきらきらとその白い肌を光らせ、その輝きは船の行手の空間を、そこだけ異様な光で埋めた。

澄みとおた青空につぶらな柿の実の朱色が光そつるながめはいかにも豊饒なみりの秋を感じさせる。

課題1 (師範以下初段以上)

白銀色の魚は、いずれも水面を出る時にきらきらとその白い肌を光らせ、その輝きは船の行手の空間を、そこだけ異様な光で埋めた。

『天平の薨』 井上 靖

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。ペンまたはボールペン(黒色)を使用のこと。青インクは不可。
- (2) 段級欄は本人が記入(色は黒)はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (3) 受験料は一、〇二〇円
- (4) 添削希望者は直接担当の先生にお申込下さい。(返信用封筒に自分の住所・氏名を記入し、切手を貼って同封のこと。)
- (5) 課題1 九九〇円
- (6) 課題2 五五〇円

課題2 (初段格以下)

澄みとおた青空につぶらな柿の実の朱色が光っているながめはいかにも豊饒なみりの秋を感じさせる。

『花信』 円地文子